

世界に誇る高性能電子・イオン銃の開発力

株式会社オメガトロン

会社概要

- 創 業 平成5年7月
- 資 本 金 2,000万円
- 従 業 員 8人
- 所 在 地 ひたちなか市東石川3118
- T E L 029-271-3731
- F A X 029-271-3732
- U R L <http://www.omegatron.co.jp/>
- E-mail info@omegatron.co.jp
- 事業内容 高性能電子銃・イオン銃、各種分析装置の開発・設計・製造までの一貫製造



今回は、2009年「元気なモノ作り中小企業300社（経済産業省）」に選出された株式会社オメガトロン代表取締役の芳賀沼哲夫氏にお話しを伺った。同社は、電子銃・イオン銃の設計・製造について高度なノウハウを持ち、日本の最先端研究に使用される実験装置等を提供している会社である。

創業への決断

同社の歴史は、平成5年7月に那珂市のマンションの1室で始まった。芳賀沼社長と夫人の2人での創業である。それ以前は、社長自身、現在とは畑違いである自動車部品会社の製造ラインの設計等に従事していた。なぜあえて退職を決断し、困難な道を選択したのか。そこには学生時代“電子”が持つ不思議さへの魅力に惹かれたことにルーツがある。“電子”は未だ解明できていない部分が多く、いつか知識を深め、“電子”に関係する製品を開発したいという夢を持ち続けていた。そのため、その夢への第一歩として、一念発起し創業を決断したのである。当初は、独立したことに対して、周囲にも「無謀な挑戦ではないか」との声があったことも事実だった。

また、期待していた実験装置開発のような仕事を受注することができなかった時期もあった。しかし、芳賀沼社長はそこで諦めることなく、独学で電子銃・イオン銃の設計等についての勉強を続けてきた。その継続した努力もあり、最先端研究に使用される実験装置を手掛けられるまでの設計・開発力を身に付けることができたのである。今では、(独)産業技術総合研究所をはじめとして、日本の最先端研究に関わる研究所から装置開発の依頼があり、(独)科学技術振興機構からは「モデル化事業」に採択されるなど、同社の技術は、研究者間でも非常に高い評価を得ている。



μスポット高輝度高精度電子銃

特徴・強み

同社の一番の特徴は、自社で独自に設計し、装置の組立から実験データ収集までを一貫してできる力だ。装置のほとんどは特注品であるため、独創性を要求されるが、研究者のニーズを的確に読み取り、現在までに蓄積したノウハウを用いて、製品に具現化する力は同社の大きな強みの一つである。また、これまでは研究所向けに特化して事業を行っていたが、最近では、産業界(自動車メーカー等)向けに、電子ビームを使った溶接装置を自社で開発、製品化した。同装置は、真空加熱を可能とし、厚さ10 μ mから0.5mmの範囲で局所的に溶かす電子ビーム溶接を可能にした。大手メーカーの汎用機より消費電力が少なく、低コストで装置を提供できるなど、注目を集めており、成長が期待できる装置である。

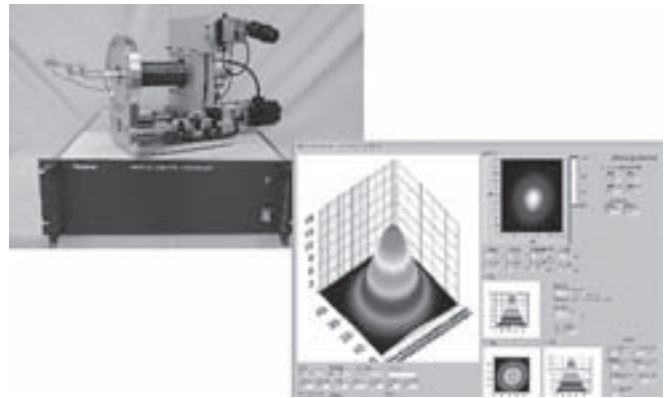
また、営業活動にも力を入れている。専属の営業担当者を配置し、ホームページにアプローチがあったものについては、直ぐに訪問してフォローを行うようにした結果、今まで取りこぼしてきたチャンスを着実につかめるようになってきたことは、大きな改善の一つであった。

失敗を重ねて得たもの

今でこそ、業績も順調に推移してきているが、順風万般にここまで来たわけではなかった。特に、バブル崩壊による研究開発費の圧縮により、同社も大幅に受注が減少し、会社存続の危機にさらされたこともあった。また、今では高度な装置も製作できるようになったが、最初から簡単にできるはずもなく、失敗に失敗を重ねて、可能となったものである。芳賀沼社長は「失敗を重ねて、悩みぬいたからこそ得られるものが多かった。逆に、簡単に成功してしまった時は、得られるものも少なかった。」と、失敗から学ぶことの尊さを話してくれた。

また、これまで多くの危機・困難を乗り越えてこ

られたのは、創業の夢であった「電子銃・イオン銃」の開発にかける思いと、自社製品を通じて、社会に貢献するという強い思いがあったからである。「売上向上だけが目標であったら、困難は乗り越えられなかった。仕事に情熱を持っていたからこそ、諦めずに現在までやって来れた。」と言うとおり、社員一同、自信と誇りを持って仕事に取り組んでいるのである。社員の1人は、アルバイトで入社後、電子回路に強い興味を持ったことをきっかけとして、風呂場の中にも本を持ち込むほど、独学で電子回路について勉強し、今では同社の電子回路のエキスパートとして、欠かせない人材と育っている。



ビームプロファイルモニター
(用途：電流密度の評価・計測)

今後について

現在、世界的に著名な日本人研究者と共同で、世界でも最先端の実験に関わる装置を共同開発している最中である。今後は、研究所にとどまらず、産業界(自動車メーカー等)向けの装置開発に分野を広げ、これまで設計・開発の中で培われた技術を使って社会に貢献することを目標としている。「日本の技術力は、まだまだ世界のトップレベルにある。アメリカ、ドイツなどの技術先進国はもちろん、中国にもまだまだ負けるわけにはいかない。」と芳賀沼社長は熱く話してくれた。これからも、茨城から日本の技術力を世界に発信していこうとしている。